

# 名犬の時間

## コロナ禍であっても

る兆しは見えない。当然ながら私たち学生が実習に行かせていただくことは大変難しい状況であるため、大学生活最後となる実習は学内で行われる運びとなった。

私が2年生になる直前の2020年2月ごろから感染が拡大したため、2年生から現在に至るまでの実習のほとんどが学内で行われた。感染が拡大する前と比

べると臨地実習での学びがどうしても少なくなってしまうため、悲しさや悔しさを抱えていた。

だが、学内実習だからといって臨地実習と同じ学びが得られないかという点、実際はそうではなかった。私の最後の実習は老年看護学領域という高齢者を看護する領域で、紙面事例として認知症の方を受け持たせていただくことになった。

不安が強い対象者に対して家族の似顔絵を描いていたとき、それを居室に飾ることによって少しでも入院中の不安が軽減されるようにした。その他にも認知症の症状を考慮した工夫を凝らした。

例えば、クレヨンを使って似顔絵を描いていただいたことだ。水彩画だと認知症の方の場合、絵の具を混ぜたり水を足して薄めたりといった複雑で段階的な作業が難しくなる場合があるからだ。



対象者の疾患を考慮しつつ困りごとにアプローチすることが大切であり、できるだけケアに工夫を凝らすことで、その方の不安の軽減、延いては生活にハリをもたらすことにもつながるといえるという学びが得られた。

先生方はより臨地実習に近い形で学内実習が行われるようにご尽力してください。困難な状況であっても、その中でいかに学びを深め、実践に活かすことができ

最大限工夫し、考え、ケアの実践にあたらなければならぬ。に学び、成長していきたい。

耳にするが、それに倣ることなく主体的に学び、成長していきたい。

看護学科4年

草野元汰

るかという力が試されているのだと考える。昨今ではこうした状況を踏まえ、新人教育をより手厚くする病院が増えていると